

墨書土器の記号

墨書土器の文字は、意味をなす文字列にならないことが、しばしばある。木簡の解説に有効な「文脈で考える」手法が使えず、墨痕だけから考えなければならないケースが多い。

さらに厄介なのが、文字とも記号ともつかない墨痕たちである。都城でよく登場するのは、「○」や「×」など。文字も元々は記号だから、こうした記号たちにも意味があるはずなのだが、なかなかその正体がわからない。

そうした例の一つに「四つ葉のクローバー」状の記号がある（平城宮出土墨書土器集成Ⅱ「二五五号など」）。記号の形は、一見すると「器」字に近いように見える。だが、見れば器とわかるものに、「器」と記すというのは奇妙に感じてしまう。

ところが、本号で報告している西大寺食堂院木簡が出土した井戸SE九五〇から出土した墨書土器の中に、「厨」の文字とこの記号を連記したものがあった（下写真）。「厨器」ならば意味が通る。この例から考えると、「四つ葉のクローバー」が「器」を記号化したものである可能性が大いに高まったといえると思うが、いかがだろうか？

とはいえ、見れば器とわかるものに「器」と記すのはなぜか、という従前の疑問はなお未解決のままである。墨書土器の記号は、一筋縄ではいかない曲者である。

（馬場 基）



西大寺食堂院跡井戸 SE950 出土墨書土器